

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立足立小学校】

1 実践テーマ	I・III・V		
2 実施対象者 (学年・人数)	北九州市立足立小学校 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"> I・V 第6学年1組 児童（37名） </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> III 中西麻耶選手 講演会 全学年児童（187名） 保護者 </td> </tr> </table>	I・V 第6学年1組 児童（37名）	III 中西麻耶選手 講演会 全学年児童（187名） 保護者
I・V 第6学年1組 児童（37名）	III 中西麻耶選手 講演会 全学年児童（187名） 保護者		
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 領域名 (総合的な学習の時間・学級活動) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()		
4 目標 (ねらい)	<pre> graph TD A[スポーツ文化についての体験を通して 自己の生き方について考える。] --> B[I オリンピックの歴史について 調べ、スポーツの歴史や 意義について考える。] A --> C[III パラリンピアン の生き方に 触れ、自分らしく生きる ことの大切さを感じる。] A --> D[V バラ種目を体験し、スポーツ の楽しさに触れるとともに、 障がい者への理解を深める。] </pre>		
5 取組内容	今回の事業の採択を受け、6年生が総合的な学習の時間として、大きな単元を設定し、学習に取り組んだ。その柱は3つである。 1 オリンピックの歴史を学び、その意義について考え。スポーツの素晴らしさについて考える。 ○ 本やインターネットで、オリンピックの歴史を調べ、その意義について考えた。調べたことを学級内で交流し、さらに理解を深めるようにした。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> オリンピックの歴史を調べて、成り立ちがわかったので、その意義を理解して、来年はしっかり世界の人を迎えたいです。 </div>		

2 パラリンピアンのお話を聞き、自己と重ねながら、その生き方について触れる。

- 足に障害のある陸上競技者から、パラリンピック出場までの挫折と、それを乗り越え、自分の道を歩もうとする生きざまについて話を聞いた。
- 講話を通して、人としての強さ・生きがい等について考えた。
- これから自分の夢に向かってどのような努力をすればいいのか、自己を見つめ直すとともに、だれもが幸せに暮らせる社会について考え、互いに助け合って生活していくことの大切さに気付いたことを発表した。




児童の感想より

- A 僕は中西選手のお話を聞いて、中西選手はすごい勇気をもっているなと感じました。これから僕も、間違ったことをしたときは勇気をもって謝ったり、悪いことをしている人がいるときは、勇気を出して注意したりしようと思います。
- B 中西選手は、足を切断しても、その状況に負けることなく、新たな陸上という競技に取り組み、「絶対跳んでやる。」という強い気持ちですごいと思いました。どのような状況でも、気持ちを切り替えて目標に向かって頑張れるような人になりたいです。

3 パラリンピック種目である「ボッチャ」の体験を通して、より身近に感じることで、スポーツへの関心を高めたり、楽しむ心を育んだりする。

- 中西麻耶選手の講演後、他のパラリンピックの種目について問いを広げ、どんな種目があって、どのようなルールで行っているかなど、自分で調べる時間を設定した。調べていく中で、CMなどでも話題に上がっている「ボッチャ」に興味を示し、体験を行うようにした。その際には、「なぜこのようなスポーツが生まれたのか。」「このスポーツの楽しさはどんなところか。」など、個の問いに応じた体験の目的をはっきりさせ、学習に取り組むようにした。
- 体験後は、それぞれが感じたことを交流し、体験したスポーツでの感想をもとに、東京オリンピック・パラリンピック成功に向け、自分たちにできることを考え、新聞として発信し、単元をまとめる予定としている。

<p>6 主な成果</p>	<p>○ 本年度は大きな 3 つの柱を系統的に位置づけることによってねらいとする子供の姿に迫ることができたと考えている。本校の実態として、夢や目標を思っていないと答える子供が多くみられた中で、「夢に向かってあきらめずに頑張っていきたい。」や「自分で決めたことは最後までやり通したい。」と振り返りで答える姿から大きな成果があったと考えている。一年間通して単元を設定したことで、継続的な指導が図られたことは大きな成果である。</p> <div style="text-align: center;">  </div>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ オリンピックの歴史を調べる際には、前回の東京オリンピックの様子が見える写真を提示し、現在の様子との違いを比較しながら、学習を進めるようにした。また、それぞれのオリンピックへの関心を大切にしながら、発信する目的をはっきりさせ、主体的に学習に取り組めるように工夫を行った。</p> <p>○ 昨年同様に全児童対象の「おかえり講演会」の部と4、5、6年生対象の交流会の部の、二部構成にして、より、中西さんとふれ合うことができる場を設けた。現役のパラリンピアンである「中西麻耶」さんをお招きし、中西さんの半生について語っていただくだけでなく、実際に競技用の義足にふれさせていただいたり、ドバイで行われた世界陸上での様子、その時に獲得した金メダルに実際に触れさせてもらったりすることで、パラリンピックへの関心を高めるとともに、障害を乗り越えて自分の夢を追いかける生きざまにふれさせるようにした。</p> <p>○ 「ボッチャ」の体験では、単なる体験に終わることがないように、今回の体験を生かして、オリンピック・パラリンピックとどのようにかかわっていきたいのか、自分たちにできることはどのようなことなのかを問い続け、歴史的なオリンピックの成功に向け、新聞にまとめ発表する予定である。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○ 成果の検証を行うのが、単元終了後であるため、報告書の中では、数値での検証が行えないという課題がある。年度末に、子どものアンケート等を分析し、課題を発見した上で来年度につなげていきたいと考えている。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○ 来年度以降講師の確保が困難であると考えている。本校の希望としては、来年度も中西麻耶選手を招聘したいと考えているが、講師の謝金などの関係から、継続は難しいと考えている。系統的な学習を仕組み、より効果的なカリキュラム・マネジメントを模索していかなければならないと考えている。</p>